

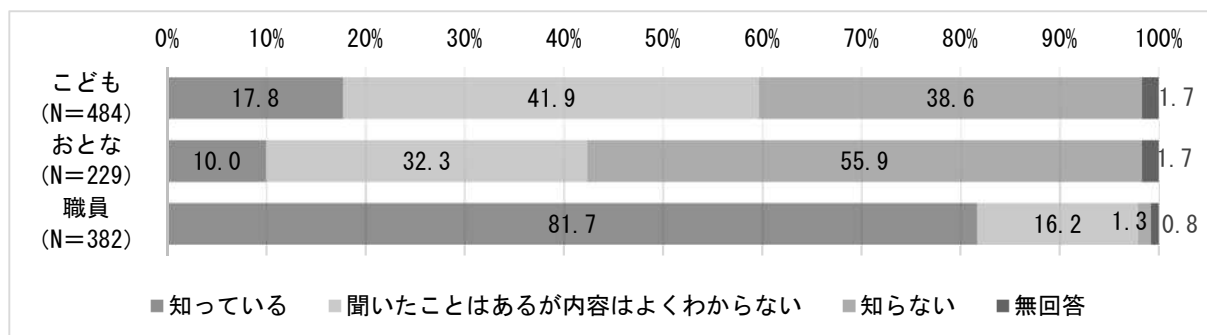
II アンケート調査の結果

1 子どもの権利条例について

(1) 条例の認知度

子どもの権利条例を「知っている」と回答した割合は、子どもが17.8%、おとなが10.0%、職員が81.7%、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」と回答した割合は、子どもが41.9%、おとなが32.3%、職員が16.2%でした。子どもは38.6%、おとなは55.9%、職員は1.3%が「知らない」と回答しています。

図1 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【全体】

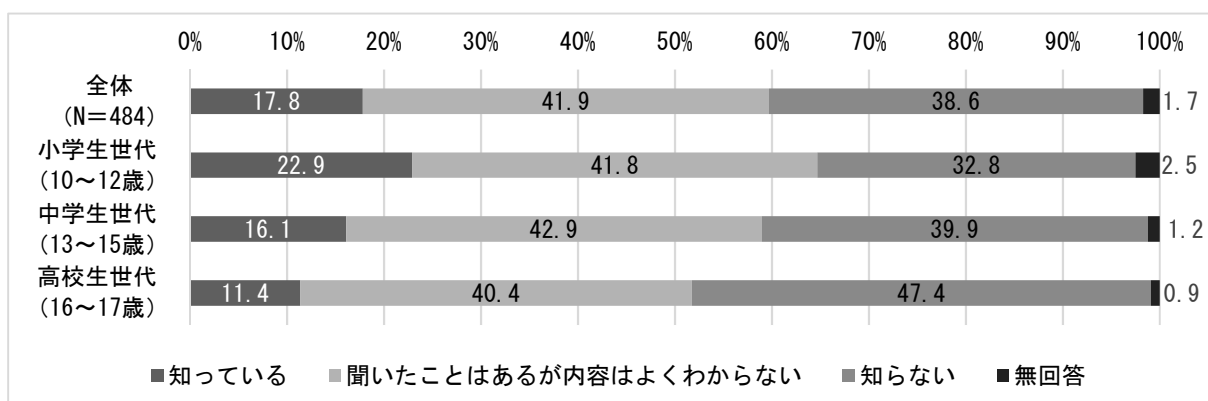


ア 子どもの認知度

【子ども：世代別】

世代別に見ると、「知っている」と回答した割合は小学生世代で22.9%、中学生世代で16.1%、高校生世代で11.4%と、世代が上がるほど減少しています。「聞いたことはあるが内容はよくわからない」では、小学生世代が41.8%、中学生世代が42.9%、高校生世代が40.4%で、「知っている」、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」を合わせると、小学生世代が最も高くなっています。

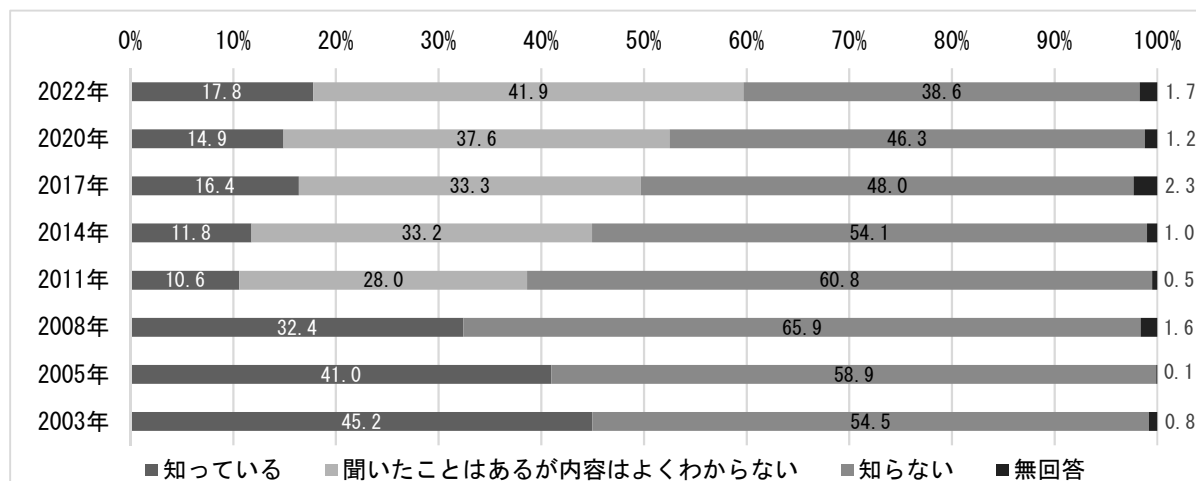
図2 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【子ども：世代別】



【子ども：経年比較】

前回の調査と比較すると、条例を「知っている」と回答した子どもは14.9%から17.8%と増加しました。「聞いたことはあるが内容はよくわからない」と回答した子どもも37.6%から41.9%と増加しました。「知らない」と回答した子どもの割合は過去最低でした。

図3 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【子ども：経年比較】



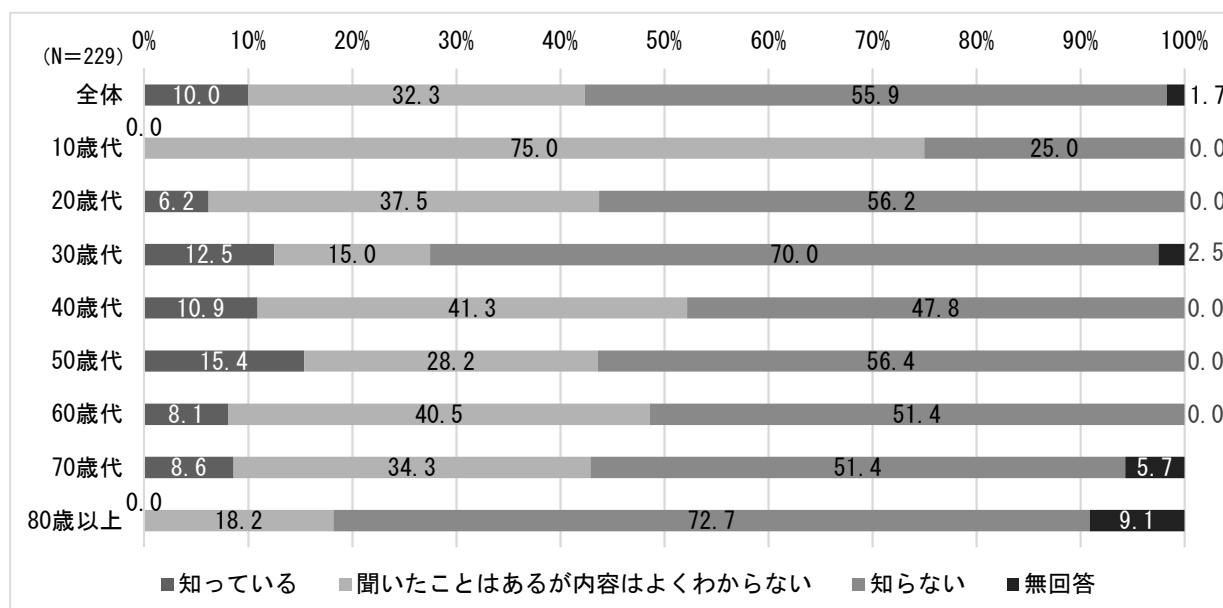
(注) 2003～2008年の調査では「知っている」「知らない」の2択

イ おとなの認知度

【おとな：年代別】

年代別に見ると、「知っている」、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」と回答した割合が最も多い年代は、10歳代の75.0%で、次いで40歳代の52.2%、60歳代の48.6%でした。

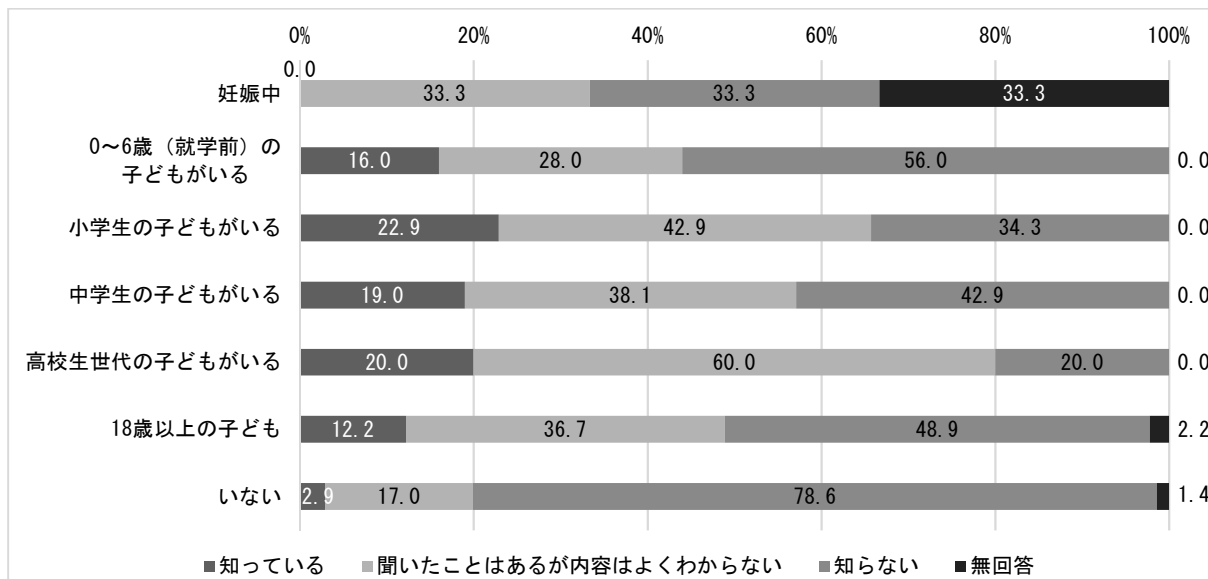
図4 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【おとな：年代別】



【おとな：子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、条例を「知っている」、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」と回答した割合が最も高かったのは「高校生世代の子どもがいる」おとなで80.0%、次いで「小学生の子どもがいる」おとなの65.8%、「中学生の子どもがいる」おとなの57.1%でした。これに対し、子どもは「いない」おとなは19.9%と最も低くなっています。

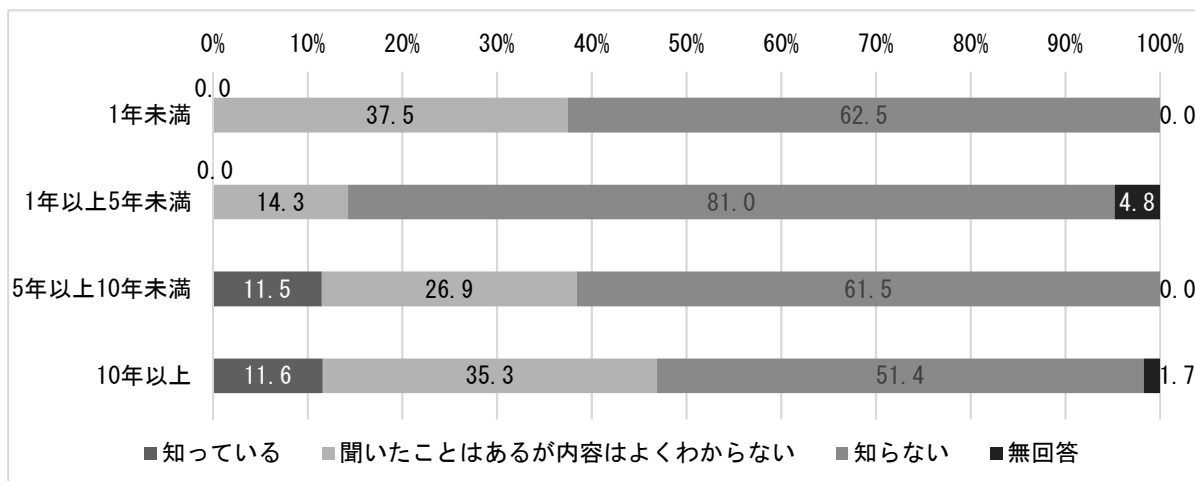
図5 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【おとな：子どもの有無別】



【おとな：居住期間別】

居住期間別で見ると、条例を「知っている」、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」と回答した割合が最も高かったのは「10年以上」のおとなで46.9%、次いで「5年以上10年未満」のおとなで38.4%でした。

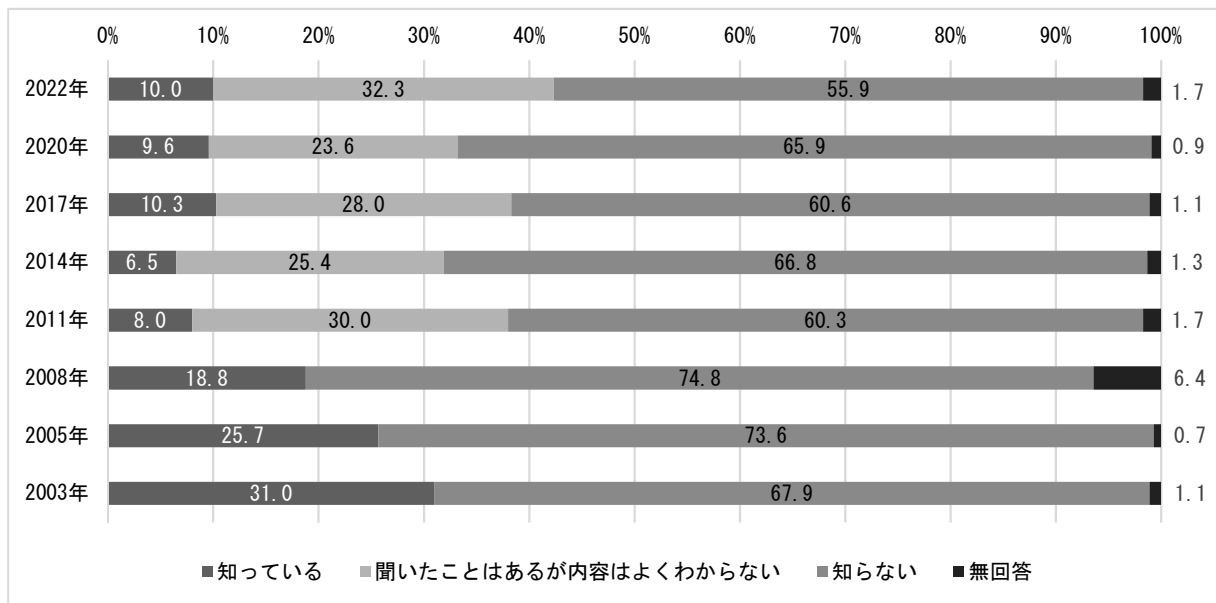
図6 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【おとな：居住期間別】



おとな：経年比較】

前回の調査と比較すると、条例を「知っている」人は9.6%から10.0%に、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」人は23.6%から32.3%と、いずれも増加しました。

図7 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【おとな：経年比較】



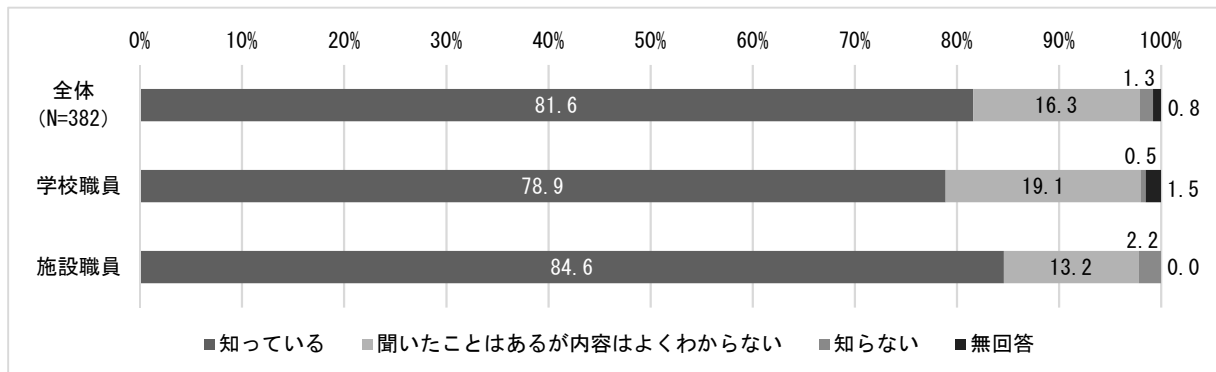
(注) 2003～2008年の調査では「知っている」「知らない」の2択

ウ 職員の認知度

【職員：施設別】

施設別で見ると、学校職員の78.9%、施設職員の84.6%が条例を「知っている」と回答しました。

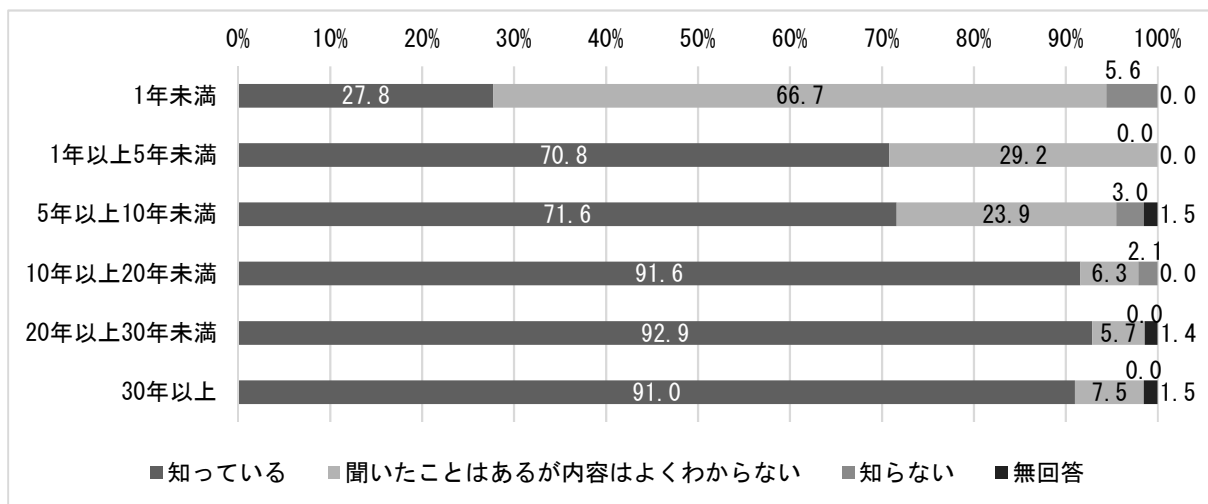
図8 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【職員：施設別】



【職員：勤続年数別】

勤続年数別で見ると、おおよそ勤続年数が長い職員ほど「知っている」と回答した割合が増加する傾向にあり、10年以上の勤続年数の職員の9割以上が「知っている」と回答しました。

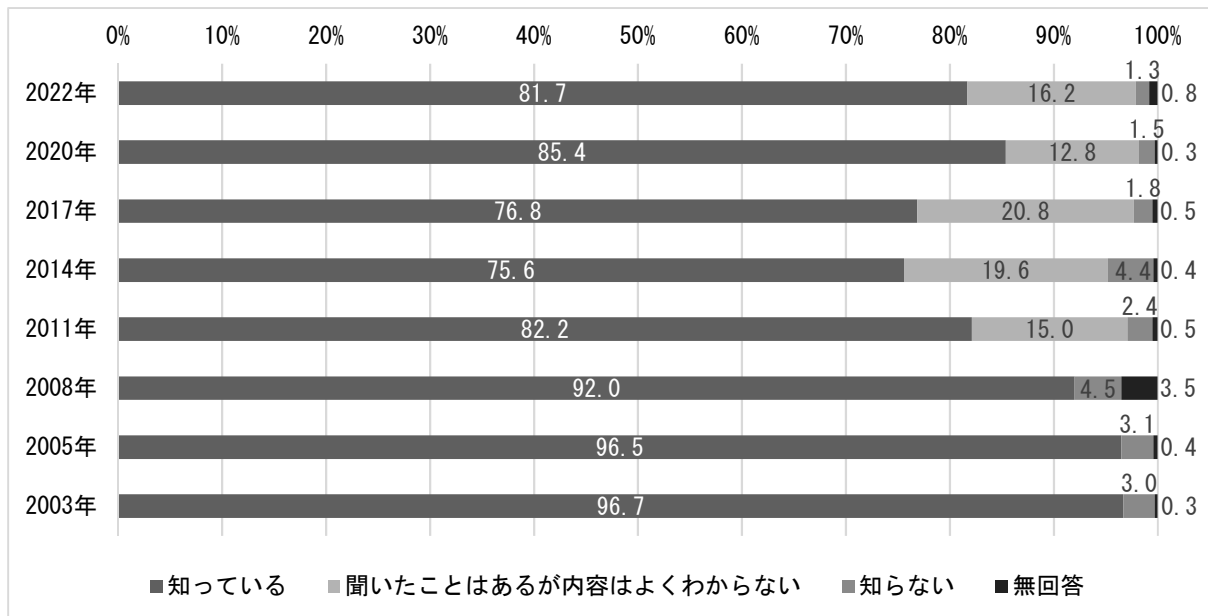
図9 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【職員：勤続年数別】



【職員：経年比較】

条例を「知っている」「聞いたことはあるが内容はよくわからない」と答えた職員が前回調査の98.2%から97.9%へと減少しています。「知らない」と回答した職員の割合は過去最低でした。

図10 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【職員：経年比較】



(注) 2003～2008年の調査では「知っている」「知らない」の2択

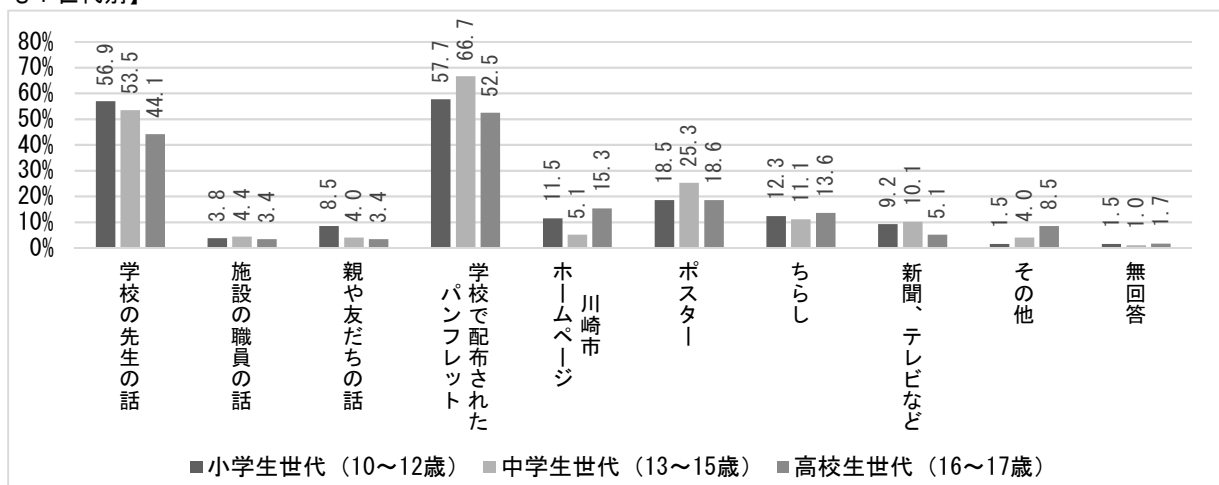
(2) 条例の認知方法（条例を「知っている」「聞いたことはあるが内容はよくわからない」と回答した人）

ア 子ども

【子ども：世代別】

世代別に見ると、小学生・中学生・高校生世代ともに、「学校で配布されたパンフレット」「学校の先生の話」と回答した割合が高くなっています。

図 11 Q2 川崎市子どもの権利条例をふだんどのような方法で見たり聞いたりしますか。(複数回答可)【子ども：世代別】



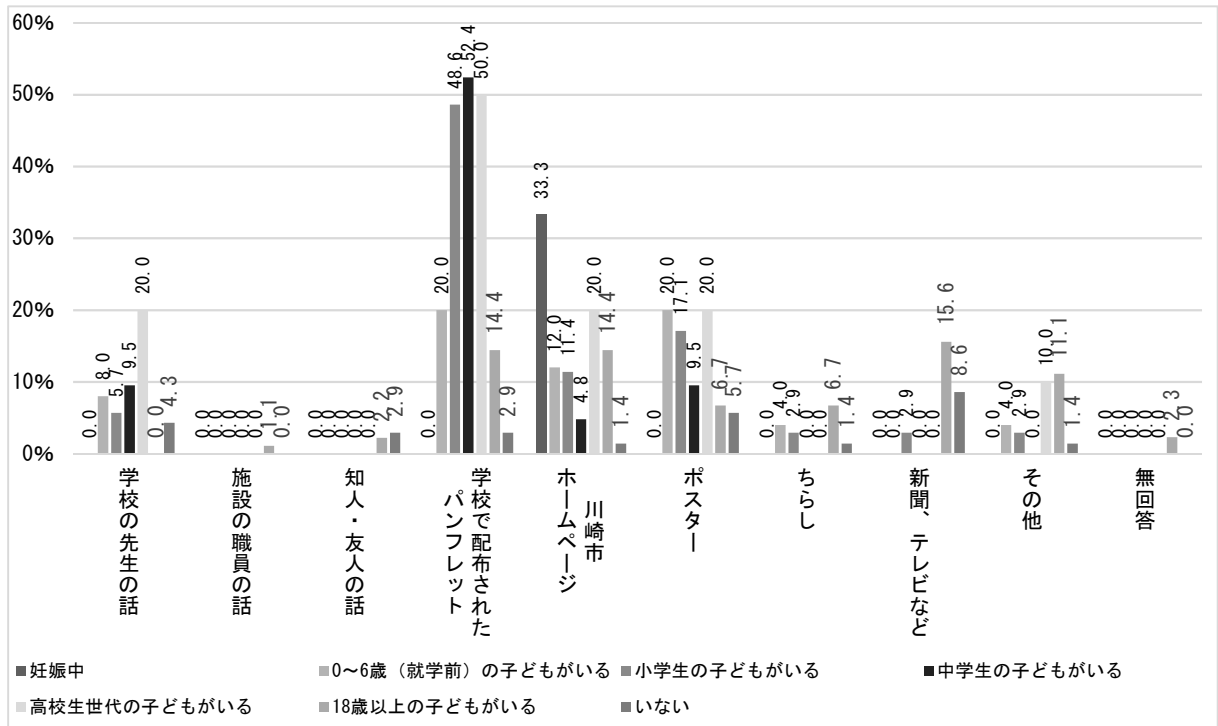
「その他」の回答については、P. 50 参照。

イ おとな

【おとな：子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、小・中・高校生世代の子どもがいるおとなは、「学校で配布されたパンフレット」と回答した割合が最も高くなりました。妊娠中のおとなは「川崎市ホームページ」と回答した割合が多く、就学前の子どもがいるおとなは「学校で配付されたパンフレット」や「ポスター」と回答した割合が高く、18 歳以上の子どもがいるおとなと、子どもはいるおとなは、「新聞・テレビなど」と回答した割合が高くなりました。(図は P. 12 図 12 を参照)

図 12 Q 2 川崎市子どもの権利条例をふだんどのような方法で見たり聞いたりしますか。(複数回答可)【おとな：子どもの有無別】

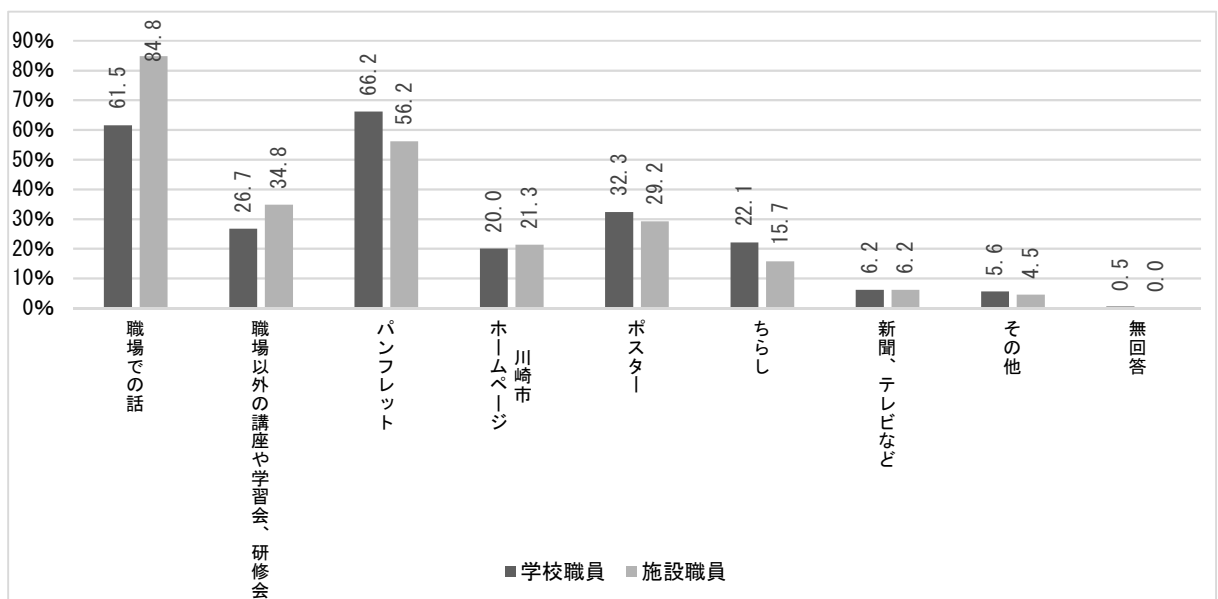


ウ 職員

【職員：施設別】

施設別に見ると、学校職員は「パンフレット」と回答した割合が最も高く、施設職員は「職場での話」と回答した割合が最も高くなりました。

図 13 Q 2 川崎市子どもの権利条例をふだんどのような方法で見たり聞いたりしますか。(複数回答可)【職員：施設別】



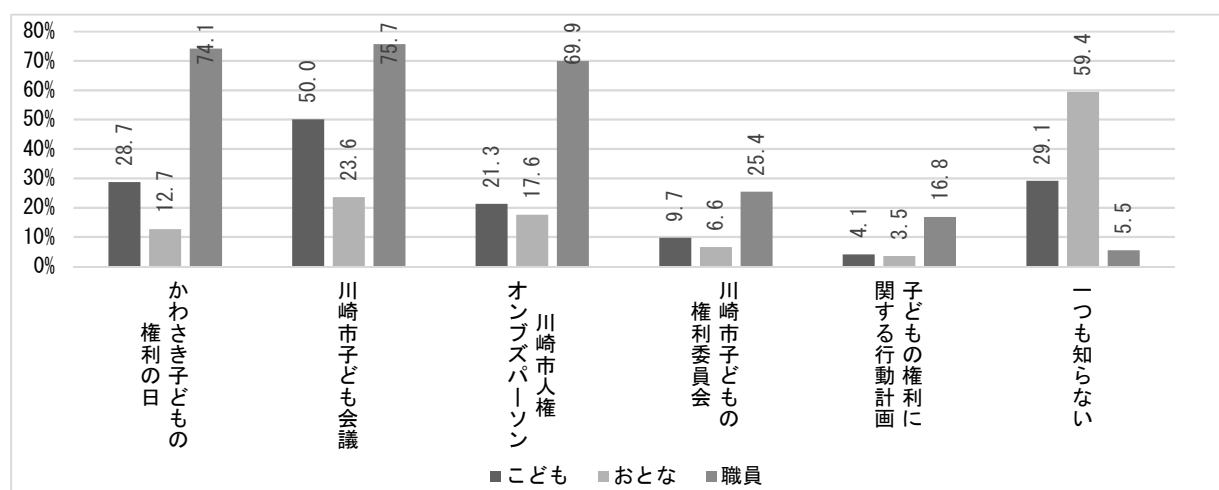
(3) 条例に基づく取組の認知度

条例に基づく取組のうち、子どもの回答で知っている割合が最も高かった取組は、「川崎市子ども会議」の50.0%で、次いで「かわさき子どもの権利の日」の28.7%でした。

おとなは、全体的に認知度が低く、59.4%が「一つも知らない」と回答しています。知っているものの中では、「川崎市子ども会議」(23.6%)、「川崎市人権オンブズパーソン」(17.6%)が比較的高くなりました。

職員では、「川崎市子ども会議」が75.7%と最も高く、次いで「かわさき子どもの権利の日」の74.1%、「川崎市人権オンブズパーソン」の69.9%という結果でした。

図 14 Q 3 次の川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【全体】



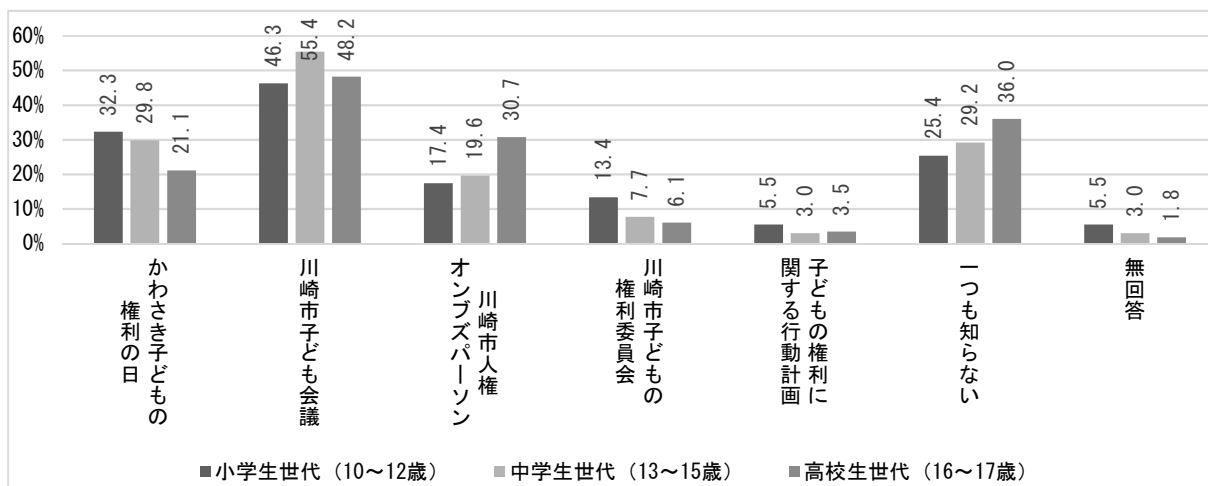
ア 子どもの認知度

【子ども：世代別】

世代別に見ると、子ども全体として最も回答の割合が高かった「川崎市子ども会議」では、小学生世代が46.3%、中学生世代で55.4%、高校生世代で48.2%でした。「一つも知らない」と回答した割合は年齢が上がるにつれて増加する傾向にありました。

また、子ども全体で2番目に知っている割合が高かった「かわさき子どもの権利の日」は、小学生世代より中学生世代、高校生世代と、年齢が上がるにつれて認知度が低くなる傾向にありました。(図はP. 14 図 15を参照)

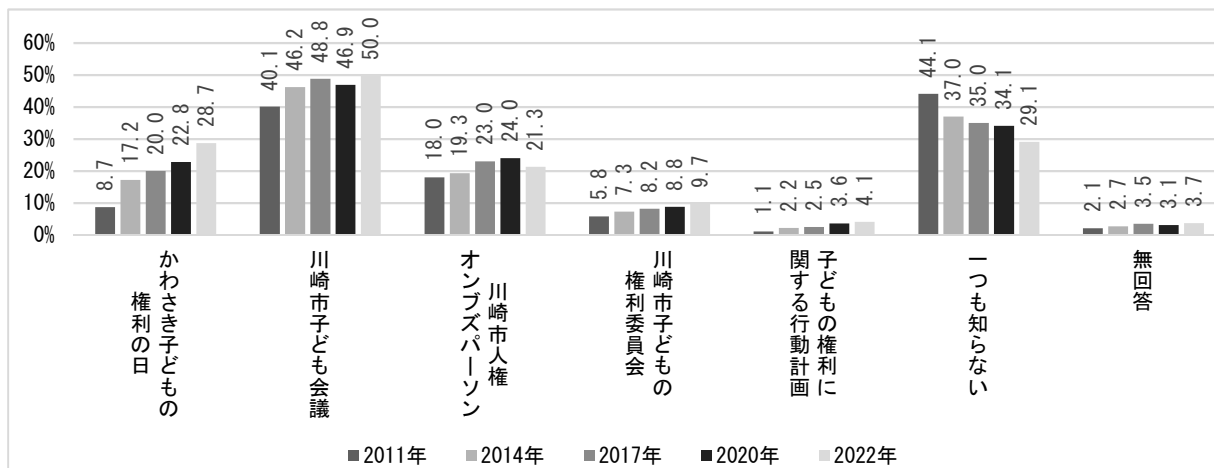
図 15 Q 3 次の川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【子ども：世代別】



【子ども：経年比較】

「かわさき子どもの権利の日」、「川崎市子ども会議」、「川崎市子どもの権利委員会」、「子どもの権利に関する行動計画」の項目においては前回調査より認知度が上昇しましたが、「川崎市人権オンブズパーソン」については2.7ポイント減少しました。「一つも知らない」とした回答は、今回の調査が最も低い割合となりました。

図 16 Q 3 次の川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【子ども：経年比較】

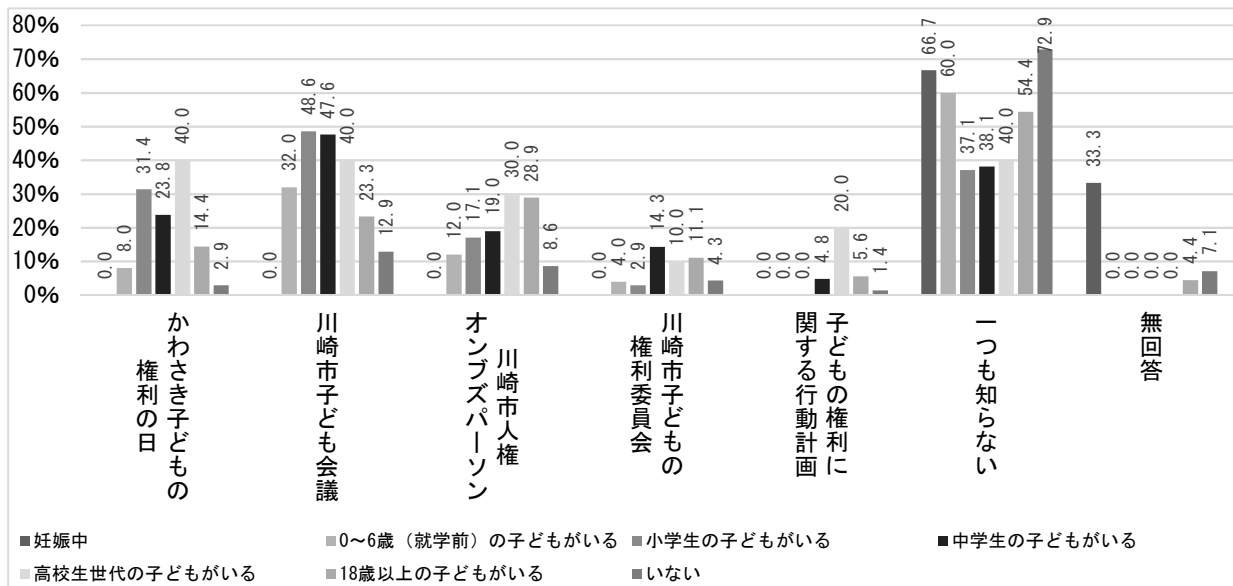


イ おとなの認知度

【おとな：子どもの有無別】

子どもの有無別に見ると、子どもがいるおとなでは、「川崎市子ども会議」の認知度が最も高くなりました。「一つも知らない」と回答した割合は、「妊娠中」のおとな、「0歳～6歳（就学前）の子どもがいる」おとな、子どもは「いない」おとなが高くなっています。

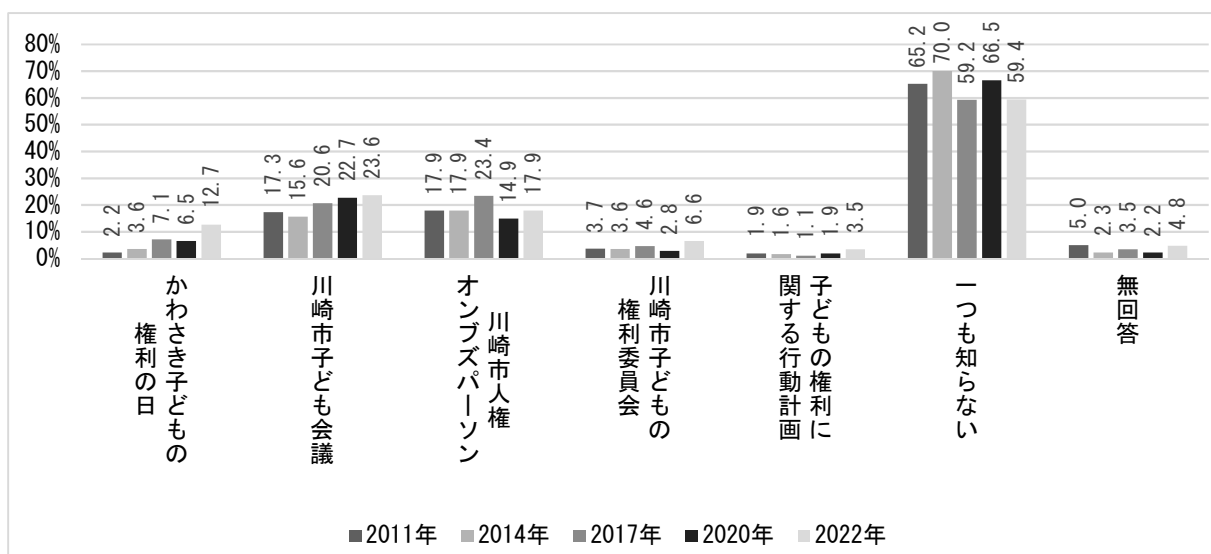
図 17 Q3 次の川崎市の取組で知っているものは何ですか。（複数回答可）【おとな：子どもの有無別】



【おとな：経年比較】

今回の調査では、前回調査と比べて「かわさき子どもの権利の日」の認知度が 6.2 ポイント増加しています。

図 18 Q3 次の川崎市の取組で知っているものは何ですか。（複数回答可）【おとな：経年比較】

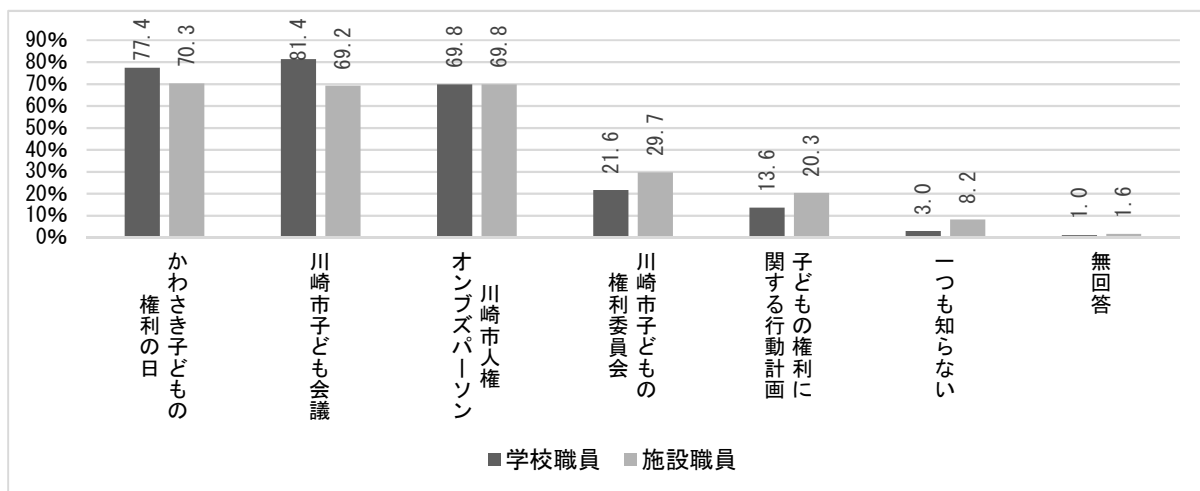


ウ 職員の認知度

【職員：施設別】

施設別に見ると、学校職員・施設職員ともに、「かわさき子どもの権利の日」、「川崎市子ども会議」、「川崎市人権オンブズパーソン」を知っていると回答した割合が高くなっています。

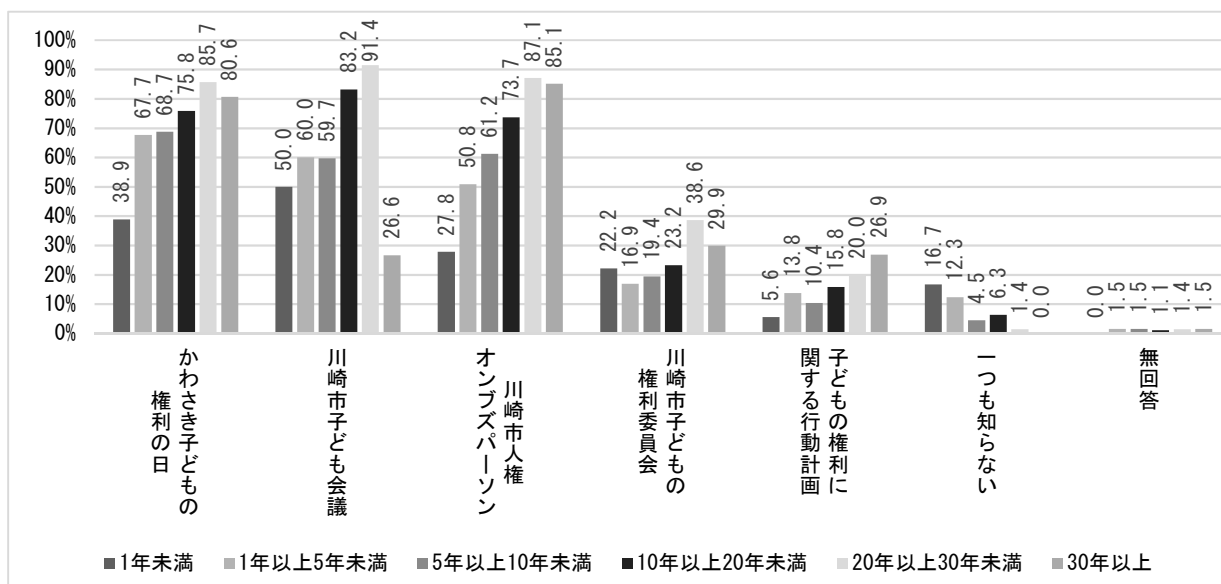
図 19 Q3 川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【職員：施設別】



【職員：勤続年数別】

勤務年数別に見ると、おおよそ勤続年数が長いほどそれぞれの取組の認知度が高い傾向にありましたが、「30年以上」勤務する職員の「川崎市子ども会議」を知っていると回答した割合が、26.6%と低くなっています。

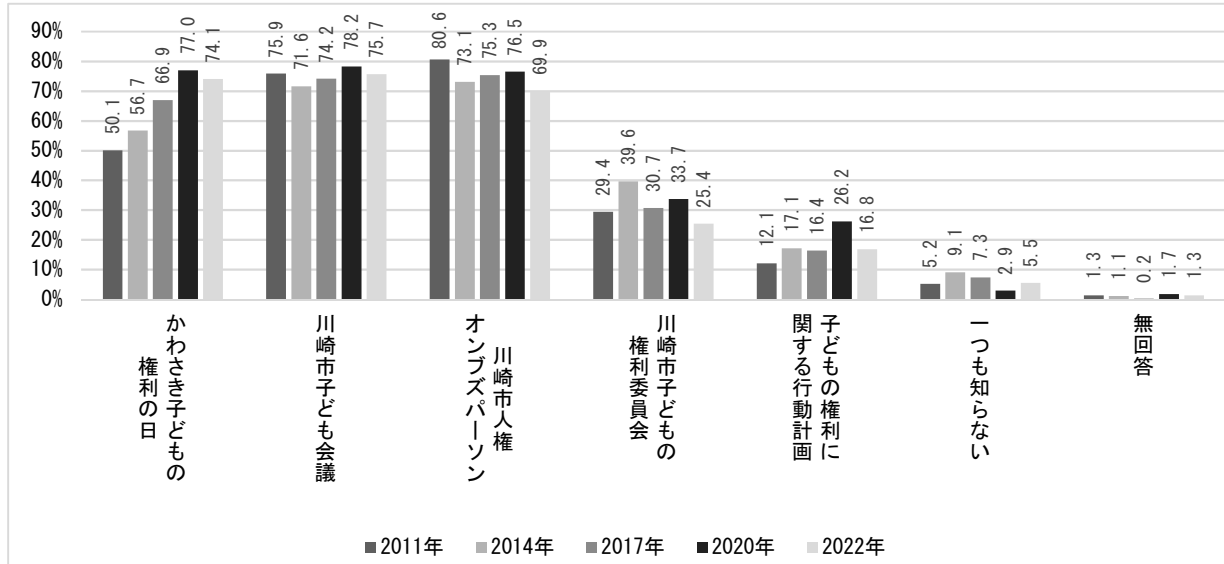
図 20 Q3 川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【職員：勤続年数別】



【職員：経年比較】

今回の調査では、前回調査より各取組の認知度が下がりました。

図 21 Q 3 川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【職員：経年比較】

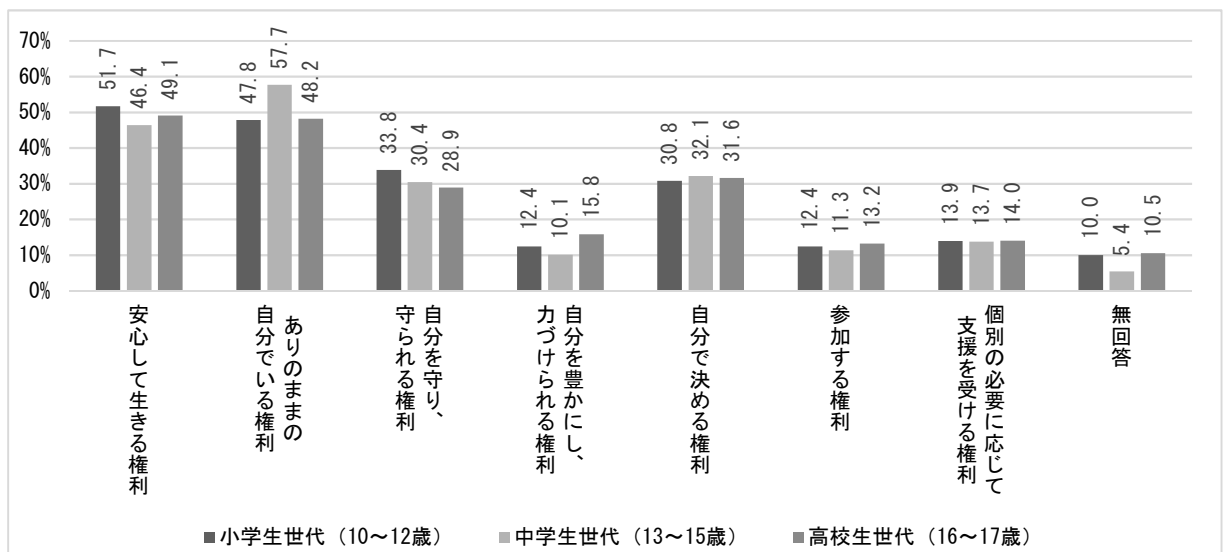


(4) 子どもの権利の中で、最も大切だと思うもの

【子ども：世代別】

子どもに対し、7つの子どもの権利の中で、自分にとって最も大切だと思うものを大切だと思う順に3つ選んでもらったところ、最も割合が高い回答は、小学生世代と高校生世代は「安心して生きる権利」で、中学生世代は「ありのままの自分でいる権利」でした。

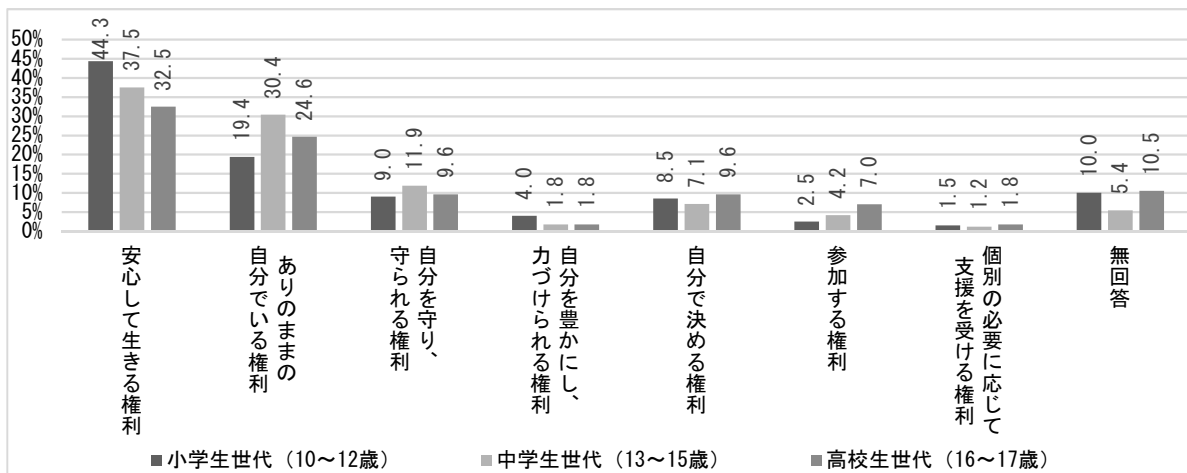
図 22 Q 4-1 7つの子どもの権利のうち、自分にとって大切だと思うものはありますか。あてはまるものを最大3つまで選び、大切だと思う順にその番号と理由を書いてください。(全体)【子ども：世代別】



選んだ理由についてはP. 51~参照

大切だと思う権利のうち、一番目に選ばれた権利で最も多かったのは、全ての世代とも「安心して生きる権利」でした。

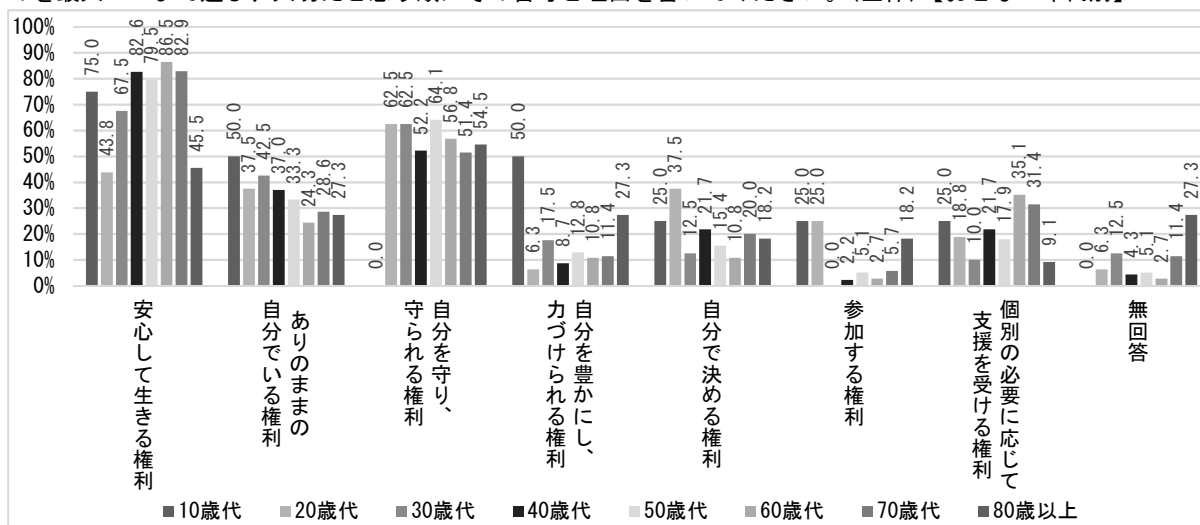
図 23 Q4-1 7つの子どもの権利のうち、自分にとって大切だと思うものがありますか。あてはまるものを最大3つまで選び、大切だと思う順にその番号と理由を書いてください。(1番目)【子ども：世代別】



【おとな：年代別】

おとなに対し、7つの子どもの権利の中で、子どもにとって最も大切だと思うものを大切だと思う順に3つ選んでもらったところ、20歳代、80歳以上を除く年代において最も回答の割合が高かったのは「安心して生きる権利」でした。20歳代、80歳以上は、「自分を守り、守られる権利」が最も高くなりました。2番目に多く選ばれた権利については、10歳代では「ありのままの自分でいる権利」と「自分を豊かにし、力づけられる権利」、20歳代、80歳以上では「安心して生きる権利」、30歳代から70歳代では「自分を守り、守られる権利」を2番目に多く選びました。

図 24 Q4-1 7つの子どもの権利のうち、子どもにとって最も大切だと思うものはどれですか。あてはまるものを最大3つまで選び、大切だと思う順にその番号と理由を書いてください。(全体)【おとな：年代別】

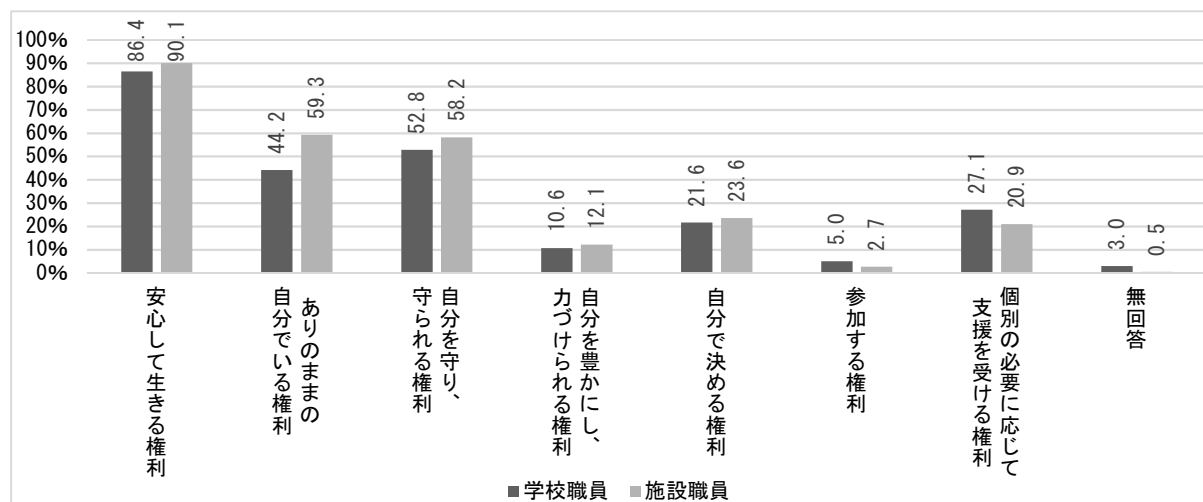


選んだ理由についてはP. 83~参照

【職員：施設別】

職員に対し、7つの子どもの権利の中で、「子どもにとって最も大切だと思うもの」を大切だと思う順に3つ選んでもらったところ、学校職員・施設職員どちらにおいても最も回答の割合が高かったのは「安心して生きる権利」でした。2番目に多く選ばれた権利は、学校職員は「自分を守り、守られる権利」で、施設職員は「ありのままの自分である権利」でした。

図 25 Q4-1 7つの子どもの権利のうち、子どもにとって最も大切だと思うものはどれですか。あてはまるものを最大3つまで選び、大切だと思う順にその番号と理由を書いてください。(全体)【職員：施設別】



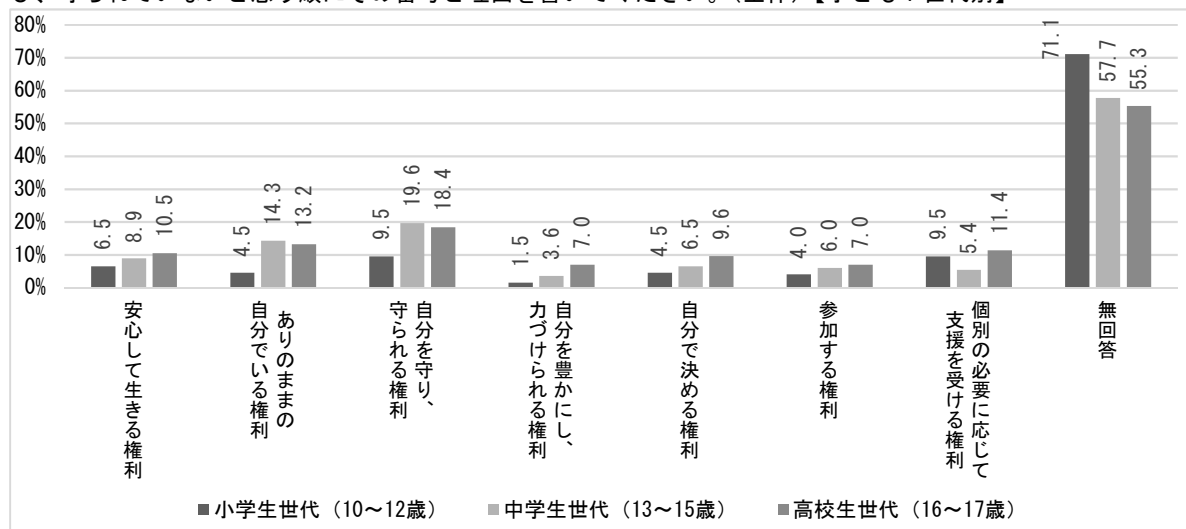
選んだ理由については P. 106～参照

(5) 子どもの権利の中で、守られていないと思うもの

【子ども：世代別】

子どもに対し、7つの子どもの権利のうち、守られていないと思うものを守られていないと思う順に3つ選んでもらったところ、すべての年代において最も回答の割合が高かったのは「自分を守り、守られる権利」でした。(図は P. 20 図 26 を参照)

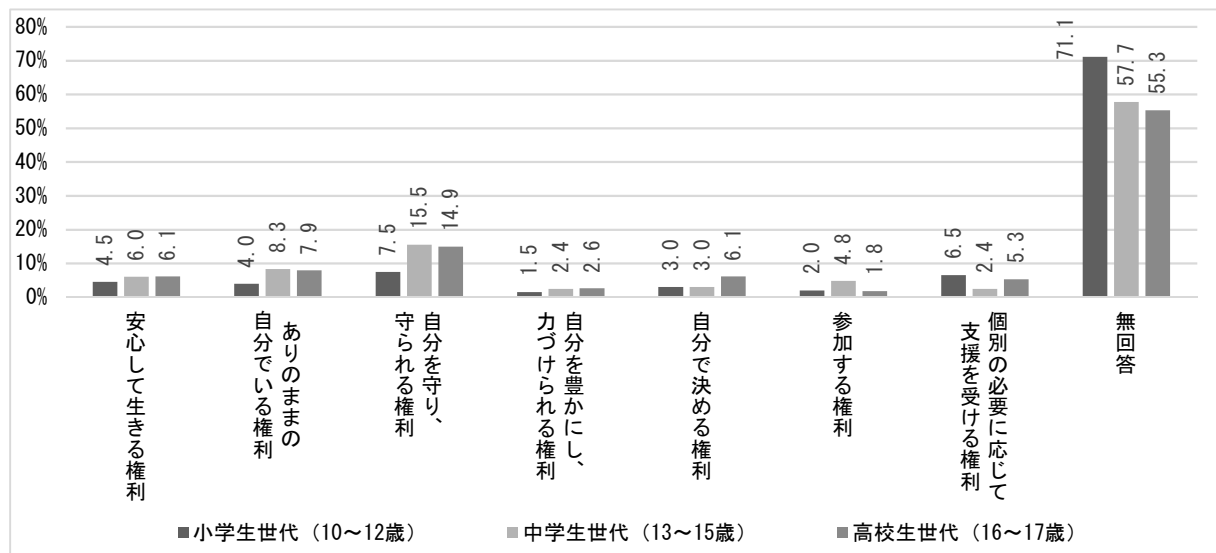
図 26 Q4-2 7つの子どもの権利のうち、守られていないと思うものはありますか。あれば最大3つまで選び、守られていないと思う順にその番号と理由を書いてください。(全体)【子ども：世代別】



選んだ理由についてはP. 57~参照

守られていないと思う権利のうち、一番目に選ばれた権利で最も多かったのは「自分を守り、守られる権利」でした。

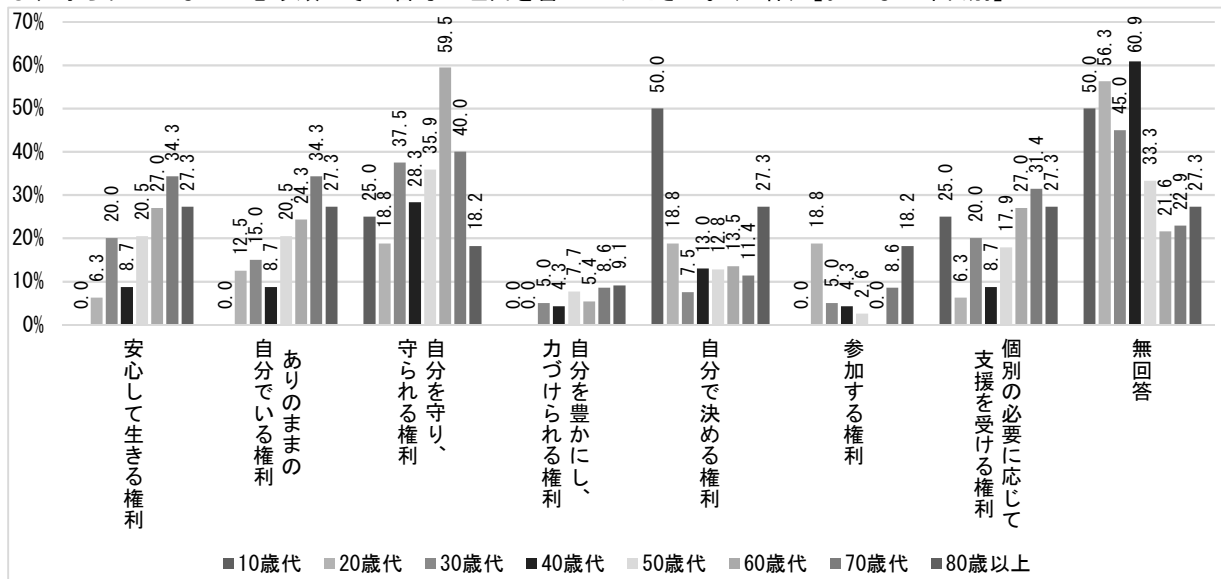
図 27 Q4-2 7つの子どもの権利のうち、守られていないと思うものはありますか。あれば最大3つまで選び、守られていないと思う順にその番号と理由を書いてください。(一番目)【子ども：世代別】



【おとな：年代別】

おとなに対し、7つの子どもの権利のうち、「守られていないと思うもの」を守られていないと思う順に3つ選んでもらったところ、ほとんどの世代において最も回答の割合が高かったのは「自分を守り、守られる権利」でしたが、10歳代は「自分で決める権利」、80歳以上は「安心して生きる権利」、「ありのままの自分でいる権利」、「自分で決める権利」、「個別の必要に応じて支援を受ける権利」でした。(図はP. 21 図 28を参照)

図 28 Q4-2 7つの子どもの権利のうち、守られていないと思うものはありますか。あれば最大3つまで選び、守られていないと思う順にその番号と理由を書いてください。(全体)【おとな：年代別】

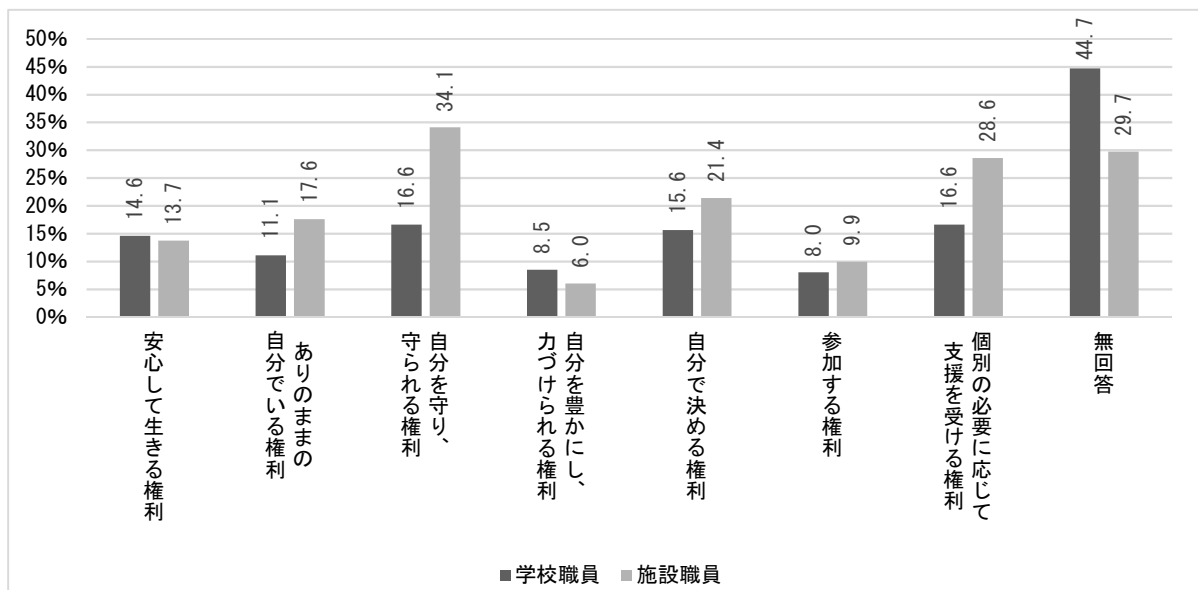


選んだ理由についてはP. 83～参照

【職員：施設別】

職員に対し、7つの子どもの権利のうち、「守られていないと思うもの」を守られていないと思う順に3つ選んでもらったところ、最も回答の割合が高かった権利は、学校職員は「自分を守り、守られる権利」、「個別の必要に応じて支援を受ける権利」で、施設職員は「自分を守り、守られる権利」でした。

図 29 Q4-2 7つの子どもの権利のうち、守られていないと思うものはありますか。あれば最大3つまで選び、守られていないと思う順にその番号と考えられる理由や問題点を書いてください。(全体)【職員：施設別】



選んだ理由についてはP. 113～参照